

$$(1) f(x) = \sqrt{2}a\pi - \rho\sin\pi x \cdot \pi + r\cos\pi x \cdot \pi = \sqrt{2}a\pi - \sqrt{2}\pi \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\rho\sin\pi x - \frac{1}{\sqrt{2}}r\cos\pi x \right)$$

$$= \sqrt{2}a\pi - \sqrt{2}\pi \rho \sin\left(\pi x + \frac{7}{4}\pi\right) = \sqrt{2}\pi \left\{ a - \rho \sin\left(\pi x + \frac{7}{4}\pi\right) \right\}$$

※ $\rho\sin\theta = -\frac{1}{\sqrt{2}}$, $r\cos\theta = \frac{1}{\sqrt{2}}$ を満たす θ とし、 $\theta = \frac{7}{4}\pi$ がある。

$f(x)$ が極値をもつためには

$f'(x) = 0$ であり、この前後で $f(x)$ の符号が変わるような x が存在すればよいから、

$a < 1$ であるはず。

$$(2) \rho\sin\pi\left(x + \frac{7}{4}\right) = a, \quad -\frac{7}{4} < x < \frac{1}{4} \text{ を満たす } x \text{ は } \exists \text{ 存在するから、これを } \alpha, \beta \text{ } (\alpha < \beta) \text{ とする。}$$

$x = \alpha$ の前後で $f(x)$ の符号は正から負に変わるから、 $f(x)$ は $x = \alpha$ で極大値をとる。

$x = \beta$ の前後で $f(x)$ の符号は負から正に変わるから $f(x)$ は $x = \beta$ で極小値をとる。

とこで、三角関数の周期性より、 $f(x)$ は $x = \alpha + 2m$ ($m = 0, \pm 1, \pm 2, \dots$) で極大値をとる。

$$f(\alpha + 2m) = \sqrt{2}a\pi(\alpha + 2m) + r\cos\pi(\alpha + 2m) + \rho\sin\pi(\alpha + 2m)$$

$$= \sqrt{2}a\pi\alpha + 2\sqrt{2}a\pi m + r\cos\pi\alpha + \rho\sin\pi\alpha$$

$f(x)$ が極大値をとる点は $(2m + \alpha, 2\sqrt{2}a\pi m + \sqrt{2}a\pi\alpha + r\cos\pi\alpha + \rho\sin\pi\alpha)$ であるから、

$$\text{これは直線, } y - \sqrt{2}a\pi\alpha - r\cos\pi\alpha - \rho\sin\pi\alpha = \frac{2\sqrt{2}a\pi}{2}(x - \alpha)$$

$y = \sqrt{2}a\pi x + \rho\sin\pi\alpha + r\cos\pi\alpha$, 上に等間隔に並んでいる。